

代議員会出席記

「第139回日本医師会臨時代議員会印象記」

代議員 本 間 哲

今回の代議員会は北海道勢の座席が右側最前列で、横倉会長、中川副会長、他の2副会長、常任理事と正に対面した位置であった。脳裏をかすめたのは帰りのことである。いつも羽田発時間の関係で15時30分に医師会館を出発するのだが、その時間までに会議が終了した例がなく、中座常習者の私は抜け出すルートを詮索していた。しかし、今回は午前中の代表質問も10分ほど早く終了し、午後の個人質問もそのままタイムテーブルを維持しながら15時30分まで余裕を残して会議を終えた。対面している会長以下執行部の前をこそこそ足早に抜け出す姿はどう考えても様にならず、質疑時間の厳守を打ち出した今回の議運の働きかけが功を奏し大変感謝している。

今回は藤原副会長と今代議員から代表質問、個人質問がそれぞれなされたが、いずれも記載された通りの射た内容であり、他の質問も同様であった。最近の代議員会は執行部の答弁に真摯な内容が多く、横倉会長の目指す医師会の姿かたちにわれわれが少しずつ同調し吸引されていくように感じる。我が国は課題先進国と言われ、中でも少子高齢化は世界最速で進んでおり、医療はその最大の影響を受けるとされる。限られた社会保障財源の中で考え出さ

れた地域包括ケアシステムをそれぞれの地域で機能させなければ未来は来ないのである。そのためにわれわれはプロフェッショナルオートノミーに基づいた言動を求められ、逸脱するものは更生し、互いに浄化しながら社会貢献していかなければならない。今後、医療機関はそれぞれの機能と役割を認識した上で多職種との連携を広く築き上げ、医療提供のみならず的確な保健指導や介護療養環境の管理などを行わねばならない。今代議員会の会長所感に「かかりつけ医」という文言がかなり多く使われており、その役割が少し明確になってきたように思う。開業医のみならず勤務医もかかりつけ医として活躍する現場が理想的なのだろう。そしてわれわれは日医の思いを国政に反映させる為、より大きな集団にならねばならない。ある代議員も述べた如く、今後特に勤務医の入会を促す努力が必要と思われる。会員一人一人がそういう意識でこれからの見据えたいものだ。

最後に日医が直面する問題は、平成30年の診療報酬と介護報酬の同時改定に向けて、いかに政府与党へ財源確保の働きかけができるかに尽きるので、財源抑制による給付範囲の縮小は国民皆保険を崩壊させることを頑丈な楯として戦ってほしい。

電子メールによる会員への情報提供について

— メールアドレスの登録 —

◇情報広報部◇

本会では、インターネットを利用し、電子メールにより緊急性の高い情報を、会員の皆様へ送信提供しております。対象は当会の電子メールアドレス利用者全員と他プロバイダの電子メールアドレスをお持ちになっていて、本会にアドレスを登録している会員です。

他プロバイダの電子メールアドレスの登録につきましては、随時受け付けておりますので、是非ご登録いただきたくご案内いたします。

●電子メールアドレスの登録方法

電子メールで、ご氏名、登録メールアドレスを明記のうえ、下記宛お送りください。

・申込先メールアドレス：add@m.dou.jp